

フラワーネット埼玉南支部 オープンセミナー

フリージアへの熱い想い…日本一のこだわり生産者!

フリージアの魅力

一般的に知られているフリージアの印象は、清楚でシンプルないい香りの春の花というところでしょうか？

主役というより脇役として使われることの多かったフリージアに魅了され、誰よりも熱い想いで花作りをしている生産者さんが、今回講師をしていただく埼玉県杉戸町の高成園 高館(たかだち)さんです。

フリージアの栽培に対する想いの温度は、日本一の高さをもっていると言っても、過言ではないでしょう。



こだわりの栽培方法

一般の一重咲きフリージア(アラジン等)は、葉つきで出荷されますが、葉をつけるためには、本来のフリージアが持っている力を押さえ込んで育てる必要があります、ひとつの球根に対して、1本の花しか採ることができません。それは同時に、フリージアの花の美しさや迫力を抑えてしまうことにも…そこで、高成園では1m以上の背丈になるまで大きく育て、木のように出てくるわき芽＝枝から採花する“枝切り”の方法で栽培をしています。オランダではスタンダードなこの方法を参考に、市場とのタイアップで新しいスタイル(ユーロスタイル)での本格的な出荷を始めました。しかし、大きく育てるためには、一般的なフリージア栽培の4倍以上の広さで花を育てる必要があるとのこと。

しかし、「**花の大きさやつぼみの数、花びらの枚数、しっかりとした軸、強い香り、**といったフリージアの美しさや魅力を最大限に引き出すためには、この方法でなければならない」のだそうです。



高成園さんではアラジンなど従来の品種も高品質で出荷しています。



その花がもっとも輝く時期に、最高のものを出す！

フリージアが一番力をつける“旬”に咲かせることで、その魅力を発揮することができます。春の開花に向け、球根は地面の温度を調整しながら9月下旬から10月初旬に植付け。そして、2月下旬には、一番花が咲くように管理していきます。出荷のタイミングは「きちんとつぼみがふくらみ、開花する寸前の状態で採花する」こと。畑でつぼみを大きくさせることで花びらが厚くなり、日もちもグンツと良くなります。また、咲くギリギリまで土からの栄養をもらっているため、つぼみの最後まで大きく咲くことができ、より高品質の花になるそうです。

「フリージアには、花屋さんの主役になるだけの価値と魅力がある花。凛々しく、迫力のある本当の姿を伝えていきたいです。」そんな熱い想いが込められた高成園のフリージア・ユーロスタイルを一度店頭に招いてみてはいかがでしょうか？



高成園 高館雅実 -TAKADACHI MASAMI-

高成園四代目（大正4年の創業。）東北種苗の筆頭株主の曾祖父が初代。

菜種の採種やキンセンカの育種をし近隣の農家に作らせ、出荷することから始まる。

花を栽培し始めるのは、三代目の成行(父)約50年。幼い頃より父の背中を見て育ち、農家の跡継ぎとして純粋培養かと思いきや、サッカー選手か学校の先生を夢見てサッカーに明け暮れる。

高校時代には、大宮東高校サッカー部で全国大会準優勝、高校選手権ベスト8まで進出！農業そっちのけの毎日。

大学への推薦入学を蹴り、一転農業を継ぐべく修行の為に、京都の種苗会社へ・・・

全国の有名生産者の元を営業として回りながら、花業界を体験し就農。

フリージア栽培(26年目)をしながら、PTA 会長、地元消防団副分団長も務める。

※(株)大田花き「FLOWER OF THE YEAR OTA 2018」 特別賞受賞

※全国フリージア生産者協議会 初代会長



ユーロスタイル品種紹介

グランディール
(ユーロスタイル)



ソレイユ
(ユーロスタイル)



ボランテ
(ユーロスタイル)



ダイヤモンドスター
(ユーロスタイル)



ハネムーン
(ユーロスタイル)



ルビーレッド
(ユーロスタイル)



アンコガ
(ユーロスタイル)



高成園オリジナル品種
(ユーロスタイル)

